



HIROSAKI UNIVERSITY

第14回 弘前大学 震災研究交流会

弘前大学のネットワークで震災研究を上げよう。

『「辺境」からはじまる』書評会 ~著者、山下祐介に聞く

日時 2012年11月1日(木) 18:00~20:00

場所 コラボ弘大8F 八甲田ホール

『「辺境」からはじまる』書籍紹介

白石 睦弥

弘前大学特別研究員

書評「東京の震災論／東北の震災論」

平井 太郎

弘前大学大学院地域社会研究科 准教授

著者からのリプライ

山下 祐介

首都大学東京都市教養学部 准教授

総合討論

19:40~ 意見・情報交換

※ 震災対応や震災研究に興味のある方はどなたでも参加・聴講できます。

※ 当日、報告の後に、震災に関する情報・意見交換を行います。情報をお持ちの方はこの機会にご紹介ください。

※ 連絡会終了後、有志の懇親会を予定しています。



<http://www.akashi.co.jp/book/b101892>

第13回震災研究連絡会は、2012年10月9日に行われた。報告内容は以下の2題。

「津波被災地の社会的被害の分析と課題～岩手県野田村の事例から」

三上 真史 弘前大学大学院教育学研究科1年

三上さんの報告は、東日本大震災で津波に襲われた岩手県野田村の被災プロセスを家族の生活史に遡って丹念に掘り起こすものでした。もともと三上さんが野田村に入られたのは、弘前大学と弘前市による野田村に対する支援がきっかけでした。現時点でも、調査者として第三者的に観察するというより、支援者として寄り添うスタンスが貫かれていました。そうしたスタンスを取るからこそ見えてくる《被災の多相性》。この《多相性》こそ、現在、高台移転や地盤かさ上げなどの土木面での復興が進められるなかで、顧みないといけないことは当事者にも気づかれつつも、なかなか顧みられていません。三上さんの報告はそのようなジレンマが今、被災地で渦巻いていることにも光を当てていました。若者や女性の声が顧みられにくいことはすでに知られています。くわえて、そうした声のなかにこそ、進みつつある土木事業の隘路を乗り越える知恵が潜んでいることも示唆されていました。たとえば、浜手から少し離れた山手への集団移転。このままでは浜手時代の生業や付き合いは維持しづらい。でも両者をつなぐ短絡路もあわせて整備してもらえれば違うのではないか。そのような前向きな提案が、いわゆる家族や地域の「代表者」ではない立場の人からこそ聞こえてくるというのです。会場からは「被災にばかり焦点を当てるのは調査者の一面的な見方ではないか」という指摘もありました。ただ、人びとに寄り添いそれぞれの被災を明らかにしたその先に、今回の三上さんのように希望の光を見出す方法には、希望を希望として一面的に示すよりも深い説得力がありました。

「大規模災害時の外国人被災者への情報伝達について考える

～「やさしい日本語」は阪神淡路・新潟県中越・東日本大震災でどう使われたか」
佐藤 和之 弘前大学人文学部教授

佐藤先生の報告では、阪神・淡路大震災以降積み重ねてこられた『やさしい日本語』プロジェクトが、今回の震災で一定の成果を挙げ、さらに社会に浸透しつつあることを紹介していただきました。『やさしい日本語』。一般語のようですが、国語学の研究にもとづいて厳選された語彙、言葉遣いを指し、20年近くにわたり改良が重ねられてきたものです。日本ではこの間、外国語を母語とする方も急増しています。言語の上でのその対応策というと英語さえ使えばよいと思われています。これに対し、日本で一定期間居住している人なら不正確な逐語訳より明快な『やさしい日本語』の方が役に立つ。これが佐藤さんの研究・実践の結論です。なぜか、『やさしい日本語』では《文化の翻訳》が目指され、本当に伝えたいことが研ぎ澄まされるからです。たとえば、地震という自然現象も世界中どこにでも起こるものではありません。「震度6」と言われても地震に慣れていない人には何を意味しているのかわかりません。ですので「震度6」をそのまま外国語に置き換えるのではなく、「いのちの危険がある地震」と『やさしい日本語』を使う。これが《文化の翻訳》、すなわち「文化の違いを意識し乗り越えようとする」こと。言わば、『やさしい日本語』プロジェクトの眼目は、『やさしい日本語』という新たな翻訳語を覚え、使うことというより、「本当に伝えるべきことを考え、伝えられるよう努力する」そうした意識と行動を私たちの日常に定着させることにあるのでしょうか。私たちの日常には母語の違いのほか、男女や世代、立場、疾患などさまざまな「文化の違い」が横たわっています。佐藤さんはそうした拙速な一般化には慎重でした。が、そこにも佐藤さんと私の立ち位置という別な「文化の違い」があるのでしょうか。そう、とめどなく想像力が促されるひと時でした。(H)

【連絡先】 弘前大学大学院地域社会研究科 檜垣研究室(教員室2)

Tel 0172-39-3938 (内線 3938) Mail himaki at cc.hirosaki-u.ac.jp